

# 医学教育年表

(平成6 (1994) 年4月～平成10 (1998) 年3月)

- |          |        |  |          |        |  |
|----------|--------|--|----------|--------|--|
| 平成       |        |  |          |        |  |
| 6(1994). | 5. 17  | 臨床研修研究会「卒後臨床研修制度の抜本的改善について(要望)」を提出。研修修了を保険医登録の要件にすることや研修に際しての処遇の改善を要望  |          |        |  |
|          | 8. 23  | 日医、日本医学会、学会認定医制協議会による認定医の承認が正式決定   |          |        |  |
|          | 9. 1   | 第46回世界医師会総会「医の倫理」をテーマにストックホルムで開催   |          |        |  |
|          | 9. 14  | 厚生省の病院機能評価基本問題検討会が報告書で第三者機構の設置を希望  | 8(1996). | 3. 28  | 看護職員養成カリキュラム等改善検討会が中間報告書   |
|          | 11. 2  | 厚生省の医師需給の見直し等に関する検討会が「医師需給の見直し等に関する検討会意見」を提出。医学部入学定員の10%削減の未実施校について大学関係者の努力を要望   |          | 6. 21  | 文部省の21世紀の医学・医療懇談会が第1次報告書「21世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して」を公表                                 |
|          | 12. 27 | 厚生省の医療関係者審議会臨床研修部会が「医療関係者審議会臨床研修部会意見書中間まとめ」を提出。ローテーション研修が未定着であること、臨床研修を必修化して改善する必要があることなどの意見があり、保険医問題や研修医の処遇については検討課題とした |          | 7. 21  | 厚生省の「国民医療政策会議」と「国民医療総合政策プロジェクトチーム」が発足  |
| 7(1995). | 1. 23  | 厚生科学会議が国立研究機関の統廃合を提言   |          | 7. 31  | 厚生省の医療関係者審議会臨床研修部会臨床研修検討小委員会が「中間意見書」臨床研修の必修化を含めた抜本的改善が必要、保険医問題は研修財源問題が整理されたうえで検討すると。 |
|          | 4. 7   | 第24回日本医学会総会「人間性の医学と医療」をテーマに開催(名古屋)   |          | 8. 1   | 厚生省・文部省が看護婦学校養成所指定基準を改正  |
|          | 4. 13  | 厚生省の医療関係者審議会医師部会の医師国家試験改善検討委員会が報告書、平成9年の試験からこれに沿って実施   |          | 11. 13 | 厚生省の国民医療政策会議が「21世紀における医療供給体制」の中間報告、卒後研修の必修化が急務と。                                     |
|          | 4. 18  | 厚生省の医療審議会、今後の医療供給態勢の検討を開始  |          | 12. 6  | 厚生省、医療技術評価のための検討会を発足   |
|          | 5. 15  | 厚生省の医療関係者審議会臨床研修部会臨床研修検討小委員会が検討開始  | 9(1997). | 2. 6   | 文部省、国立大学病院における治験の取扱について通知  |
|          | 6. 22  | インフォームド・コンセントのあり方懇談会が報告書   |          | 2. 21  | 文部省の21世紀の医学・医療懇談会が第2次報告書「21世紀に向けた介護関係人材育成の在り方について」を公表                                |
|          | 7. 21  | 国立大学病院長会議が卒後臨床研修必修化について申し入れ  |          | 3. 18  | 厚生省・文部省が「医師の卒後臨床研修に関する協議会」を設置  |
|          | 7. 27  | 医療機能評価機構が正式に発足   |          | 5. 13  | 日本医師会「医師需給に関する検討委員会」を設置  |
|          | 10. 2  | 医療研修推進財団認可   |          | 6. 3   | 財政構造改革会議が最終報告「財政構造改革の推進方策」を公表。薬価基準、診療報酬、老人保険等の他、大学医学部の整理・合理化や医学部定員の削減                |
|          |        |  |          | 10. 24 | 文部省の大学付属病院における臨床研修の在り方に関する調査研究会が「報告書」を提出   |
|          |        |  |          | 11. 20 | 文部省、「21世紀の医学・医療懇談会」設置  |
|          |        |  |          |        | 厚生省の医療関係者審議会臨床研修部会臨床研修検討小委員会「臨床研修制度改善に関する現時点での考え方」を公表                                |

および医師国家試験の合格者数の抑制等による医療供給体制の合理化についても言及。

6. 17 臓器移植法案（中山案）一部修正の上成立
6. 27 厚生省の在宅医療推進検討会が在宅医療学の確立を提言
7. 1 文部省の21世紀の医学・医療懇談会が第3次報告書「21世紀に向けた大学病院の在り方」を公表
7. 10 厚生省のカルテ等の診療情報の活用に関する検討会が発足
7. 24 厚生省の医師の需給に関する検討会が医師削減についての検討を開始
8. 1 厚生省の末期医療に関する意識調査等検討会が発足
8. 7 厚生省、21世紀の医療保険制度（厚生省案）で臨床研修必修化と国家試験の見直しを、と。  
経企庁、「国民医療費の現状と将来」で医師数の抑制を提言
8. 8 日経連、「高齢者医療を中心とした医療制度改革についての提言」で医学部・医科大学の定員削減の推進を主張
8. 29 与党医療保険制度改革協議会でも臨床研修必修化と国家試験の見直しを、と。
9. 22 文部省の保健体育審議会が学校医の学校教育への積極的参加を期待すると答申
11. 11 ユネスコ「ヒトゲノムと人権に関する国際宣言」採択
12. 3 行革会議の最終報告により文部・厚生両省も2001年より機構や名称が変更予定
12. 15 文部省の21世紀の医学・医療懇談会の「医師の育成の在り方に関するワーキングチーム」が「自学自習の態度を養うため、基礎と臨床を融合させるなど、カリキュラムの見直しが必要」と。
- 10(1998).1. 20 厚生省の谷健康政策局長が全国厚生関係部局長会議で医療提供体制を説明。医学教育関係では、新たな入学定員の目標の設定と臨床研修必修化を検討すると。
1. 26 厚生省の医師の需給に関する検討会が

遅くとも平成27年には医師の供給過剰になることを提示

2. 2 文部省の21世紀の医学・医療懇談会の「医師の育成の在り方に関するワーキングチーム」が厚生省の医師の需給検討会の医師過剰試算について討論。大学は地域医療を踏まえた実習を行う必要があること、ファミリー・フィジションの育成などについても意見が出された。
2. 9 厚生省の医療関係者審議会医師部会（細田瑛一部会長）内に医師国家試験改善検討委員会（細田瑛一委員長）が発足。国家試験の見直しや臨床研修必修化に伴う免許制度の見直しを視野に入れ、平成13年の改正は大幅改正が予想される。
2. 12 厚生省の医師の需給に関する検討会で事務局から医師過剰対策に素案。①医学部入学定員、②国家試験、③保険医の定員制・定年制の3つの方策が提示された。
2. 27 厚生省、医師・歯科医師・薬剤師調査の概況を発表。40代の医師の開業が進んでいること、20代の医師の1/4は女性が占めていることが明らかとなった。
3. 24 文部・厚生両省の共同設置による「医師の卒後研修に関する協議会」は総合的な討論を行い、医師免許と保険医資格は医師国家試験合格後同時に与えられるべきであること、医業を行うには研修指定病院で臨床研修を修了していなければならないことを確認。

医学教育年表の作成にあたり、紙面の都合上、医学教育学会大会、医学教育ワークショップ、臨床研修研究会をはじめ、日本医学教育学会、医学教育振興財団、全国医学部長病院長会議等の諸団体による定例会の会合や定期刊行物は意識的に掲載を避けた。なお、作成にあたっては参考文献として、日本医師会雑誌、日本医事新報のニュース欄、官庁資料要覧、私立医科大学協会の資料、全国医学部長病院長会議の資料、医療研修推進財団等の資料を参照させていた。ここにそれを記し謝意を表する。

（担当：斎藤宣彦）